



酒井 美月 さかい みづき

長野工業高等専門学校
環境都市工学科 准教授
研究分野 河川・水環境工学、
環境水中の汚染物質挙動

長野高専土木工学科卒業
神戸大学農学部生産環境情報学科卒業
新潟大学大学院自然科学研究科博士課程修了
(博士 工学)
新潟大学大学院 助教
独立行政法人農業環境技術研究所ポスドク
長野高専環境都市工学科 助教
カンボジア王国環境省 在外研究員
長野高専環境都市工学科 准教授(現在)

どのような研究をしていますか？

水に関する研究をしています。長野県は大河川の源流が多く、水も豊富できれいな場所という印象がありますが、その環境を守るためには様々な管理や工夫が必要です。水は多くの人に繰り返し利用されていくものなので、その利用には気を使わなくてはなりません。また、場所が変われば、質、量ともに大きく変化し、利用法や管理・制御の方法も異なるのも水の特徴です。近年では海外での共同研究で、途上国の水環境に関する調査研究も行っています。

高専の教員になったきっかけは？

もともと高専の学生でした。大学へ編入学したあと、大学院へ進学し、学位を取ったあとに、大学で2年働き、その後は研究所で働いていました。大学の仕事も研究所の仕事もパーマネントではなかったため、そのうちパーマネントの仕事に就きたいと思っていました。そんなとき、出身高専の恩師から、教員の募集をしているから応募したらと連絡があり、応募締め切りまであと2日という状況だったので、業務そっちのけで(上司の許可は取

パーマネントの仕事を希望していた私にぴったりの職場でした

もともと高専の学生でした。女性の教員を募集していた母校に運よく採用されました。研究だけが仕事ではなく、授業や担任業務などもあるので、どれも失敗のないよう、最低限のことはやるようにしています。

りました)書類を仕上げ、応募しました。その当時、長野高専には専門学科の女性教員がいませんでした。応募締め切りぎりぎりでも恩師が連絡をくれたのは、女性の応募者を増やしたかったためかもしれません。専門科目の教員で女性の応募というのはそうそう多くないと思います。農学や薬学では女性はある程度いるのかもしれませんが、工学で、しかも土木や機械が専門分野、その中で、大学や研究所でなく、高専への応募というのは少なかったのではないのでしょうか。

高専の教員になっていかがですか？

自分が学生のときは、先生が何をしているか知らなかったのですが、「ああこういうことだったのか」とか、「学生にはわからないところでいろんなことをしてもらっていたのだな」とあとから感謝しているところがあります。高専によって仕事は違うと思いますが、私は母校に帰ってきているので、思っていた仕事との差が少ない方だと思います。寮と担任と部活動業務は大学にはあまりない仕事ではないのでしょうか。大学での仕事も、研究と教育の両面があると思いますが、高専は学生が若い分、教育に割く労力が大きくなりがちであることは仕方が無いのかもしれない。

どのような仕事をしていらっしゃいますか？

2014年度現在3年生の担任をしています。学園祭のときに保護者面談があり、2日間で、担任をする全学生(約40名)の保護者と面談します。さすがに終わると疲れます。研修旅行などのイベントの引率にも行きます。専門科目で現場見学があったりすると、その企画から引率までをやりま。4年生の担任だとインターンシップの行き先の交渉など、5年生の担任であれば進路指導(就職・進学先の相談など)もしますね。こういうのは大学の教員より幅の広い仕事ですね。

寮の日直にも入ります。長野高専では、女性教員は日直のみになっています。夜の当直には入らなくてもいいのですが、休日が必ず削られるというデメリットがありま



す。今のところ、宿日直の回ってくる頻度は全教員一緒に、女性教員は日直だけが回ってくるようになっていきます。ただ、女性教員が増えてくると日直だけというわけにはいかなくなるかもしれません。

今は子どもが小さいので、宿泊のある業務は免除してもらっています。学会などの出張のときは子どもも連れて行きます。託児所が用意されていることもあるので、そういうときは助かります。

クラブは女子バレー部の顧問をしています。技術的な指導はできないので、練習は学生に任せきりです。地区大会や全国大会の引率、手続きなどが顧問の仕事になります。大変ですが、大会で学生が勝つととてもうれしいです。

どのような日常生活ですか？

遅くまで残ることができないので、朝早くに学校に来ます。子どもがまだ1歳2ヶ月なので、夜寝るのが早く、7時に帰ってももう寝ていることがあります。それはよろしくないということで、5時か5時半には帰るようにしています。そのため、今まで夜残ってやっていた仕事を、朝に前倒ししています。今まで8時半に来ていたところを6時半に来れば、2時間は誰にも邪魔されずに仕事ができます。子どもは朝起きるのが早いので、自分が朝早く起きるのも苦ではありません。

研究やそれに関連する実験は、卒研・卒論の時間にやることが多いです。大学に比べると、卒研の時間が格段に少ないですね。卒研の時間で間に合わなければ放課後に残ってやることとなります。着任当初は、大学や研究所にいるときと同じスピードで研究をしなければいけないと思っていました。でも、時間が決められた状態で卒業研究を行う高専での研究では、初めからできる範囲のことを設定するようにしないと、私も学生の負担も膨大になってしまうということに気がつきました。時間的にどうやっても無理があることはしないようにしようと。そのかわり、効率が悪いこともしないようにする。実験は繰り返しやらないとデー

タがうまくとれないとか、時間がかかるものも多いのですが、できるだけ机上で詰めて、作業の成功率を上げるようにしました。計画通りに進まないこともありますが、そこはそれが今の自分の力だと思って諦めるようにしています。家族や、学生に負担をかけないためには、割り切ることも大事だと思います。

研究はやることとやらないことを分けて考えることができますが、他にもいろいろな業務があります。特に授業や担任業務は失敗が許されません。やらないことを自分で決めることもできません。そのため、どれかが抜きんでなくても、どれも失敗がないように、最低限のことはやるようにしています。

高専教員を目指す人へのメッセージ

- バリバリ研究をやりたい人であれば、高専は勧めません。高専では研究と教育の比率はどうしても大学と異なるからです。しかし、高専には15歳という非常に若い年齢の学生が毎年入ってきます。大学よりもさらに新陳代謝が早いです。そのような環境にいて、教員が学生から受ける影響は結構大きいと思います。それはいいことではないでしょうか。もう一点、大学よりも一学科の教員の数が少ないため、他の分野の先生とコミュニケーションがとりやすくなり、共同研究や予算申請などでのアドバイスを受けることが出来ます。大学では講座制で類似の研究分野の先生と話をすることが多いのではないかと思います。他分野の研究者と議論をすることが容易であるというのは高専の良いところだと思います。